



越谷南ロータリークラブ会報

会長 岩淵秀一 幹事 染谷宗一 会長エレクト 小林光蔵
R I 会長テーマ 奉仕を通じて平和を
クラブ会長テーマ

平成25年2月21日 第1896回例会

ロータリーソング斉唱

ゲスト・ビジター紹介

関森初義ガバナー補佐、草加松原RC 瀬戸 健一郎氏、芹澤 一人氏、浅草中央RC 太田 富美夫氏

第7回米山功労者 吉澤会員

ポール ハリス フェロー +3 大熊会員



会長挨拶

皆さん今日は、先週の例会は初めての夜間例会でした。皆様のご協力により無事に終える事が出来ました。今年度は6月までに、後4回の夜間例会を予定しています。宜しくお願い致します。

今日は、越谷の歴史 近藤勇逮捕の一件の話です。

大久保大和と変名した新撰組の隊長、近藤勇が、下総の国葛飾郡流山村で官軍に逮捕されたのは慶応4年（明治元年）4

月3日でした。徳川慶喜追討の東海道軍先鋒退隊が品川

宿に到着したのが3月12日、東山道軍先鋒隊大宮宿を通過したのが同月18日、そして江戸城明け渡し

が4月1日、したがって近藤勇の逮捕は官軍方が江戸に進行した

直後のことであった。当時、流山に陣を布いていた近藤は同

志を集め、再挙の機会をねらって奔走していたが官軍方は3月の下旬早くも吉川村を中心に中川・古利根川筋に出兵し

じょうしゅう

で警戒にあたっていた。常州真壁郡坂井村百姓勝吾が、増林村地内で官軍方の手先に逮捕されたのが、この官軍出兵

ほぼく

警備中の3月24日のことです。勝吾捕縛の容疑は、「忠誠

はちまき

こも

と書き入れた鉢巻を所持し、菰に包んだ大小刀3本と血染めの脇差を腰に差していたことによる。勝吾はただちに

しものくにみぶじょう

にわ

下野の国壬生城に送られ死罪処刑のところ、俄かに勝吾

さまたろう

の身柄は代官大竹左馬太郎に預けられた。

勝吾は他の囚人とともに越谷宿に護送され、さらに代官の

ざんみ

吟味をうけたが、結局越谷宿で釈放されることになった。勝

じとう

吾の申し分によると、郷里真壁郡坂井村の地頭の用人原権右衛門外一名から道案内を頼まれ3月23日流山に一泊、翌二

えのきどどおり

十四日吉川村榎戸通りを江戸へ向かうところ、すでに官

はた

軍方出兵により松伏領赤岩村現（松伏町）の柳屋という旅籠屋で武装を解いた。

ここで原権右衛門外一名の所持する刀や風呂敷包みが勝吾に預けられ、越谷宿旅籠屋鍋屋清左衛門方まで持参するよう依頼された。

はらげんええもん

勝吾はこの日、原権右衛門らに命じられた通り松伏村から越谷宿に向かう途中、増林地内で捕縛されたのだという。つまり「忠誠」と書きいれた鉢巻を所持した原権右衛門一行が

きょうじゅつ

流山村で一泊したという勝吾の供述が、近藤勇の逮捕と

つまびら

どのようなかわりがあるか詳らかではないが、それからまもなく流山事件に進展していることは興味深いことです。なお4月3日に捕縛された近藤勇は4月4日越谷宿で一泊したともいわれ、翌四月5日板橋宿の官軍本部に護送された。ここで厳しい取調べをうけた後、同月25日に処刑され、その首は京都に送られて三条河原にさらされた。年、いまだ三

十四歳であったという。
以上、会長挨拶と致します。

参考文献
越谷の歴史（第三集）

幹事報告 染谷幹事

1. 地区事務局よりロータリーを語る詐欺メールにご注意下さいとの案内が来ています。
2. 地区より新会員入会速報が来ています。
3. 次回例会2月28日（木）休会となりますのでお間違えの無いようお願い致します。
4. インド第3000地区 来日VTTホストファミリー受入日程
平成25年3月27日～平成25年3月30日
3泊4日
詳細については幹事までお願いいたします。

委員会報告

委員会報告はありません。

外部卓話

草加松原RC 瀬戸健一郎 氏

「日本の世情について」 （草加市議会議員）

日本を変える
一日本型情報スーパーハイウェイ構想と国土維新計画

グローバル化した世界の中で生き残るためには、グローバルな発想としくみが必要であり、国家という垣根を、いかに低く、シームレスにしていくことができるかという問題を解決していかなければなりません。



インターネットで世界中がつながり、世界中の人とモノが速く安全に行き交うことができる時代であればこそ、「情報」と「物流」を制することが国家の浮沈と国民の幸福を左右する重要な課題なのではないでしょうか。

そこで、日本国内の情報インフラを整備推進し、世界への発信力を向上させる「日本型情報スーパーハイウェイ構想」と、東京もしくは大阪に人とモノが半日で往復できる「国土維新計画」を私は提案します。

■日本型情報スーパーハイウェイ構想

すべての国民の情報アクセスを平準化
大都市周辺自治体のみならず、地方の山村や農村、全国すべての世帯に光ファイバーによる高速通信回線を普及させ、TV電話のような新しい情報コミュニケーション機器を介して、医療過疎地の独居高齢者が自宅に居ながらにして医師の診断を受けたり、視聴者参加型プログラムに参加したり、さらには国や地域の課題解決のためのディスカッションやアンケートに参加するなど、すべての国民の情報アクセスを平準化することを提案します。

これを実現するために、国土全域における情報のアクセシビリティを充足する情報インフラを整備することが「日本型情報スーパーハイウェイ構想」のハード面の基本ビジョンであり、日本全世帯に普及する新しいコミュニティ参加ツールとして、これまでの電話やテレビのように、だれもがストレスなく操作できる汎用性の高い双方向のハイビジョン情報伝達ツールの研究開発を助成し、独居高齢者も孤立させない新しい社会参加モデルをめざすべきと考えます。

このシステムを通じて、将来は選挙での投票はもとより、直接民主制に近い住民投票や住民意向調査などが物理的に容易となり、「e-デモクラシー」が実現できることを期待します。IT分野を取り入れた日本型デモクラシーを建て上げていくことは世界にも大きく貢献することになるだろうと考えます。

すべての国民が商品出品者になれる

高級料亭の料理に添えられる草木、草花、葉っぱを採取して販売する山村があるように、日本の地方の農家や町工場が自慢の作物や製品を世界に販売するために必要な情報発信力を情報インフラが可能にします。ポータルサイトの企画運営、多言語サポートを含む情報発信のためのサポート、電子決済システムなど、すべての国民が商品出品者になれる新しい公共サービスを提案します。

小さな農家の高級果物や町工場の高精度加工品など、高品質な作物や製品をウェブ上に直結させることが「日本型情報スーパーハイウェイ構想」のソフト面の基本ビジョンです。地方に潜在している、これらの「ニッポンの底力」を開拓し、世界市場に情報発信するサポート機能を地方自治体が担うことで、地方が活性化し、日本全体が元気になるだろうと考えます。

■国土維新計画

2つの国際ハブ空港の整備

国内外に同時にに向けた本格的なハブ空港がないことが将来の日本を国際社会の中で空洞化させる大きな要因になることが懸念されます。日本を経由すれば世界中の都市にアクセスできるということが、日本を世界の中心に据える物理的な条件であることは言うまでもありません。東京国際空港と関西国際空港の拡張による2つの国際ハブ空港の整備は最大級の国家プロジェクトです。

仮称「大阪都法」という地方自治法の改正によって、東京一極集中が東京一大阪二極化にむかう可能性が現実的に動き出そうとしていますが、2つの国際空港をハブ空港化することで、台風襲来時にも日本の空の玄関の一方は閉鎖されることはなくなり、日本を経由する国際便の大幅な増便によって、新東京国際空港（成田）の機能が減少することもないだろうと考えます。

リニアモーターによる新たな高速軌道交通路の確保

東京国際空港と関西国際空港の国際ハブ空港化によって、日本への世界からの人とモノの流れが拡大します。本来、ハブ空港は国内外の空路を接続するものですが、東京―大阪間の人とモノの移動はすでに国内最大規模であり、距離的にも比較的近いこと、現在でも空路と新幹線が競合する区間です。これがリニアモーターで結ばれば、移動時間は一時間圏内となり、東京―大阪の2極が陸路でも有機的に結ばれることとなります。

リニアモーターの路線計画は、東京国際空港（羽田）から比較的距離のある新東京国際空港（成田）への延伸を含め検討する必要があると思いますが、基本的に東京―大阪の2つのハブ機能（心臓）を結ぶ大動脈としての機能として位置付けるべきであり、国土維新計画は、日本列島全体として世界のハブ機能を有機的に担うことをめざすべきであると考えます。

整備新幹線計画と高速自動車国道計画の検証と推進

東京―大阪二極化に伴う均衡ある国土の開発を推進するため、これまでの整備新幹線計画と高速自動車国道計画の戦略的な見直しが必要だと考えます。さらに平行在来線を含む軌道交通網と一般国道を含む道路網をこれらと有機的に接続し、全国どこからでも東京もしくは大阪と半日で往復できる陸路を確保し、地方都市間は空路で結ぶことが国土維新計画のもうひとつの課題です。

国土維新計画のような国家プロジェクトは国民的なコンセンサス形成を図りながら推進することが必要であり、環境アセスメントが重要です。さらに、このプロジェクトは、全国を網羅した毛細血管としての機能を担う地方道路の整備事業と同時進行することが望ましく、この分野についての都道府県や市町村の権限を強化し、国と地方の財政構造を抜本的に見直し、交付金制度に代る新しい地方間財政格差の調整制度も検討することが不可欠であると考えます。

■日本を変える。

本稿で提案する「日本型情報スーパーハイウェイ構想」と「国土維新計画」を推進することによって、大規模な内需拡大が実現し、大きな景気浮揚効果も生み出すこととなりますが、これまでの公共事業よりも明確なビジョンと日本再生に向けた投資的な事業であることから、日本は新たな国家モデルを世界に示すことが期待されます。

さらにこのプロジェクトを推進することによって、国と地方の役割分担の明確化と財源配分の抜本的な見直しが迫られ、国税と地方税の税源区分や課税方式の多様化を含む大きな税制改正と意思決定システムのIT化を含む国と地方の統治機構の改革が実現することでしょう。

日本を変える。～これらのプロジェクトを推進するプロセスの中で、日本人は日本型デモクラシーを確立していくこととなり、個人が活かされ、地域コミュニティや国家との関係が

明確になり、自由と参加の有効感覚が実感できる土壌を完成させることができると信じます。

日本全国に「だれもが幸せなまち」を実現させていきたいと希望します。

スマイル報告

瀬戸様、卓話ありがとうございます・・・佐藤（大）会員、田中会員、遠山会員、水町会員、浅水会員、神谷会員、岡田会員、池田（玄）会員、石塚会員、糸賀会員、深井会員、染谷会員、岩淵会員、久木野会員、荒井会員
 お客様ようこそ・・・本田会員、木佐会員、木村会員、濱野会員、中内会員、二川会員、飯泉会員、石野会員、中村会員、藤田会員、石田会員、斎藤会員、吉田会員、中尾会員
 お久しぶりです。結婚祝をありがとうございました。・・・片寄会員
 お客様ようこそ。芹澤様に御目にかかれて嬉しいです。・・・加藤会員
 芹澤さん、お久しぶりです。・・・水町会員
 関森ガバナー補佐、いつもご指導ありがとうございます。瀬戸さん、芹澤さんようこそ・・・吉澤会員、小林（光）会員
 本日所用のため早退します。・・・中尾会員
 今週土・日でスキー同好会行ってきます。・・・瀬尾会員
 子ども園建設も追い込み、4月開園頑張っています。・・・大熊会員
 石田さん日曜日は御馳走様でした。・・・小林（光）会員
 お久しぶりです。ネクタイ頂きありがとうございました。・・・吉澤会員
 インターシティミーティングには会員の皆様のご参加宜しくお願いします。・・・関森G補佐
 2月28日からいよいよ台中訪問です。行かれる方は宜しくお願い致します。・・・岩淵会員
 瀬戸さん卓話ありがとうございます。・・・芹澤氏

出席報告

例 会 日	平成25年2月21日		
会 員 数	51名	出席	35名
出席免除者	11名	欠席	13名
出席率	72.90%	前々回MU	1名
MU修正率	76.59%	会報担当：木佐	

————— クラブプロフィール —————
 ☆姉妹クラブ 国際ロータリー第3460地区
 台中南区扶輪社（中華民国台中市）
 ☆例 会 日 毎週木曜日（PM0：30～1：30）
 ☆例会場・事務局 〒343-0842
 越谷市蒲生旭町10-14 中野ビル2階
 TEL 048-987-5761
 FAX 048-987-5762
 E-mail info@koshigaya-south-rc.jp